大阪市老人クラブ徽章

全国３大運動
健康・友愛・奉仕をめざして
市内全会員に配布

大老連だより

令和３年　７月号
第742号　隔月１日発行
令和３年（2021年）７月１日
定価30円（送料別）　年間購読料600円（送料共）
購読お申し込みは、大老連だより編集室にご連絡ください。

昭和33年９月19日第三種郵便物認可
〒543-0021
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センター３階
発行所　一般社団法人　大阪市老人クラブ連合会
電　話　事務局 06(4304)8555
編集室 06(4304)8556
ＦＡＸ　06(4304)8557

大老連理事会を開催

大老連定時総会の決議案件・報告案件を承認

大阪市老人クラブ連合会理事会が、6月1日（火）大阪市天王寺区の大阪市立社会福祉センターで開催され、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために延期されている定時総会の開催と総会における決議案件および報告案件が全会一致で承認されました。

当初5月28日開催を予定していた定時総会ですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた会場の確保と設営を行うほか、代議員に対し書面による決議への協力をお願いするなど万全の対策を取ることとして6月下旬に開催することになりました。

この定時総会では、理事・監事の選任および令和2年度収支決算の承認などの議案の決議と令和2年度事業報告および公益目的支出計画実施報告が行われますが、理事会で承認された定時総会に提出される案件のうち、令和2年度事業報告の概要は次の通りです。

開会のあいさつをする野口理事長

令和２年度 事業報告書（概要）

総務省が昨年9月に発表したところによると、人口の高齢化は出生率の低下と相まってますます加速化しており、65歳以上の高齢者人口は3,617万人で全人口に占める割合が28・7％と過去最高となる超高齢社会を迎えております。

「高齢者の世紀」と称されることもある21世紀において、豊かで活気のある長寿社会を築いていくためには、高齢者が地域社会において積極的に役割を果たしながら生きがいを持って生活をしていくことが必要です。そのためには、積極的に地域活動に参画し、培ってきた経験や知恵を活かした取組みを進めるなど、私たち老人クラブの役割がとても重要なものになっています。

このような中で、大老連では「老人クラブの元気は地域の元気」の信念のもとに、全老連が提唱する老人クラブ21世紀プランに沿って「健康・友愛・奉仕」の実現をめざして、さまざまな活動を展開してきました。

しかしながら、年度当初から新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言が発出され、外出自粛が続く中、3密を避けるなどの感染防止対策を取りながらの事業運営となり、この事態が1年経った現在もまだ続いており、その影響は甚大なものとなっています。感染防止対策を念頭に置いた結果、やむなく延期・中止せざるを得なかった事業、参加人員を絞って実施した事業などが多くあり、普段通りの活動ができず老人クラブの運営に多大の支障をきたす事態となりました。

実施できた事業では、まず、健康づくりとして、グラウンド・ゴルフ大会を秋まで延期して実施するとともに、区老連活動を支援するための「高齢者の健康ウォーキング事業」への助成事業を継続実施するなどの取組みを積極的に進めてきました。

また、ねたきり高齢者の友愛訪問や百歳長寿者のお祝い訪問、友愛募金運動の推進などの友愛活動、そして全国一斉「社会奉仕の日」や環境美化・リサイクル活動の取組み、あるいは子ども見守り活動などの奉仕活動を精力的に実施してきました。

さらに近年、様々な手口の特殊詐欺が多発し、特に高齢者の被害が増え続けているため、大阪府警察、大阪市消費者センター等と連携し、高齢消費者被害防止に取り組んできました。

熱心に審議する理事のみなさん

そのような中で、今後、老人クラブの発展をめざすには、その活動を担う指導者の養成が今一番大切であり、各区老連会長を対象とした役員研修会をはじめ、今年12回目を迎える「健康づくり推進リーダー養成講座」は内容の充実を図り継続実施し、各区老連への出前講座としての「リーダー養成講座」も引き続き実施するなど、幅広い人材育成、リーダー養成に努めてきたところです。

一方で、大阪市との共催事業である大阪市高齢者福祉大会、全国老人クラブ大会、近畿ブロック老人クラブリーダー研修会、大阪市老人クラブ指導者・女性部指導者合同研修会、各区女性部長研修、女性部リーダー研修、大老連カラオケ大会、さらには、全国老人クラブ連合会が実施する研修や諸会議、近畿老人クラブ連絡協議会の定例会、行政関係の各種委員会など数多くの事業が中止のやむなきに至り、極めて活動が縮小された1年となりました。

このことは、個々の会員にとっては運動や社会参加の不足によるフレイルを招きかねないものとなり、老人クラブにとっては活動による新規会員の勧誘促進ができず会員の減少に歯止めがかからないという二重の危機的状況を呈することとなっています。一日も早くコロナ禍を抜け出て、日常の活動に復せる時が来ることを期待するところです。

大老連としては、地域の高齢者を代表する組織として、高齢者が活力を持って明るく豊かな長寿社会となるよう人生の充実と長寿を喜びあえる地域社会づくりに取り組んできたところですし、これからも取り組んでまいります。

令和２年度 主な実施事業の概要

心とからだの健康づくり

- **健康づくり推進リーダー養成講座**
  令和2年10月1日から令和3年3月25日まで計8回（中止含む）修了者　22名
- **高齢者の健康ウォーキング事業**
  地域高齢者の健康づくりに資するとともに、老人クラブに対する理解を広げ、仲間づくりにつなげることをめざし、此花区、大正区、旭区、鶴見区、住吉区の5区老連の協力を得て取り組んだ
- **第15回大阪市老人クラブ連合会「グラウンドゴルフ大会」の開催**
  令和2年11月5日　大阪城公園太陽の広場　参加者126名
- **各区老連における健康づくり活動**
  グラウンドゴルフ・ゲートボール・ペタンク大会等の開催、健康体操や歩こう会・ハイキング等の実施、各区医師会等の協力による介護予防、保健栄養改善など健康管理の相談会や講習会の開催など

高齢者が相互に支援する友愛・ボランティア活動

- ねたきり高齢者の友愛訪問（152名）と百歳長寿のお祝い訪問（100名）
- 友愛募金活動　各区計125万558円
- 転入者をあたたく迎える運動、高齢消費者被害防止の取組みなど

環境への取組み

- **全国一斉「社会奉仕の日」及び環境美化・リサイクル活動の取組み**
  9月20日の全国一斉「社会奉仕の日」を中心に470単位クラブ、6767名が活動に参加し、地域の環境美化の担い手としての活力を示した

はつらつとしたクラブづくりなど

- **優良クラブ、永年勤続会長表彰**
  高齢者福祉大会の中止に伴い、同大会で実施していた表彰を大阪市役所において代表者に対して実施
- **大老連供養塔法要**
  9月23日、高野山奥の院「大老連供養塔」において、役員等関係者（19名）のみで実施
- **高齢者の主張発表**
  大老連だより9月号を特別号として増ページ発行し、10区老連の方々の主張発表の全文を紙面掲載
- **大老連役員研修会**
  11月2日、日本福祉大学の中川晴夫さんを講師に招き、「老人クラブ活動の活性化とリーダーの役割」の講義などを実施
- **リーダー養成講座（出前講座）**
  幅広い人材育成をめざしたリーダー養成の一環として、健康・介護・友愛、悪質商法、防災などさまざまな分野のテーマでの出前講座を北区・中央区・淀川区・生野区・城東区・西成区の6区老連の協力を得て取り組んだ。
- **シルバー教養講座の開催**
  老人クラブ加入促進事業の一環として一般高齢者も参加対象のシルバー教養講座を「クラフト体験」「高齢者のヘルスケア」「外出自粛に伴うフレイルの予防」をテーマに開催
- **広報活動、他団体・組織との連携協力など**

前例のないことに弱い国

桃山学院大学名誉教授　石田　易司

随意随想

新型コロナウイルスの猛威が1年以上続いている。変化に弱い私たち高齢者には本当につらい毎日である。外出できないだけでなく、食事中もマスクをつけろとか、横に一列に並んで食事をしろとか「新しい生活様式」というものになじめないでいる。

また、クラスターだのステイホームなど、カタカナ言葉の氾濫にも困惑している。医療先進の外国の真似をするのも仕方ないと思うが、ソーシャルディスタンスという関係性の距離ではなく、物理的な距離を表す言葉に代えろと言われると、訳が分からなくなる。外国語だけではない。最近政治家も医療関係者もよく使う「人流」というなじみのない日本語にも違和感を感じている。人の流れという穏やかな音感より、ジンリュウといった方が強いからなのだろうが、そんな言葉は今まで使ったことがなかった。広辞苑をめくってみても出てこないし、コンピュータのキーボードを「じんりゅう」と打っても「人流」は出てこない。新しい事象に対応するために新しい言葉が必要なのはわからないでもないが、人の気持ちに訴えるために、なぜわざわざなじみのない言葉を使うのか、その意図が分からない。「物流」や「水流」のようによく似た用語があるが、人にはそれぞれ意思があって、モノやミズのように固まりでとらえられない何かがあるはずである。だから人流という用語を私たちはこれまで使ってこなかったのである。人の心にちゃんと響く言葉を使わないから、「人流」は減らないのだと思う。

それで言うなら、もっと理解できないのが「不要不急」という言葉である。必要であったり、急ぐかどうかは人それぞれであるはずである。

昨年、小学校が一斉休校になった時、給食が大切な栄養源であった子どもに対して、それがなくなったら大変だと、子ども食堂関係者が弁当の配布を工夫していた。そんな時、「不要不急の外出はするなと言っているのに、子どもが食堂へ弁当を取りに行くことは許さない」と言った校長がいた。親が働いている子どもにとって、昼食をとることは必要で、その時でなければならないと思ったのだが、そう思わない先生がいたのである。何を不要といい、何を不急というかは、人によって、あるいは状況によって変わるはずである。そうしたあいまいさを残した言葉を繰り返し使い続けることで、コロナが収束するはずがない。それこそ人流は止まらない。

こうした個人の意思を尊重して、都市閉鎖をせずに感染症と戦うのが、民主的な国家のありようだと動き出したはずの「休業要請」も、いつからか休業命令に変わって、要請にこたえないと非国民扱いされるようになった。要請というのはお願いであるはずなのに、みんなが従わないと監視体制を作って、強制しだしている。みんなが自分の意思で休業しようという環境づくりこそ大切だろう。

「緊急事態宣言」と「まん延防止等重点措置」も単なる言葉の置き換えで、感染が収まるはずがないと思っていたら、やっぱり駄目だった。

だいたい、施策の基本になる感染者数についても、感染者が網羅されているわけでもなく、検査されて、新たに分かった数でしかない。つまり検査しなければ感染者数は増えないのである。いつごろからかマスコミでも新規感染確認数という用語を使いだしたし、入院患者数や重症患者数など、別の指標を使いだしてもいる。4月の後半、大阪の患者数が東京より増え続けたとき、多くの大阪府民は、東京オリンピックをどうしても実施したい東京都が数をごまかしているに違いないと、本気で思っていた。検査をしなければ、感染者数は増えない。感染者数は意図的に操作できる信頼できない数だと、多くの人が思っていたのである。

Ｇｏｔｏトラベルをやる、やらないで各地で議論があったように、感染の鎮静と経済の活性化の両立は難しいと分かってからも、この問題の政府からの発信は、厚生労働大臣よりも経済再生担当大臣のほうが多かったことを見てもわかるように、政府は感染阻止を第1には考えていなかったのだと思わざるを得ない。

高齢者がというよりも、日本という国全体が新しいことに弱いということなのだろう。私たちは今、新型コロナウイルスの出現を前に、前例踏襲主義のつけを支払っている。

大阪市や大阪市保健所をかたった“なりすまし”にご注意ください

- 大阪市や大阪市保健所が、ワクチン接種のために費用負担を求めることはありません。
  「お金を振り込めば、優先接種できる」等の不審な電話やメールにご注意ください。
- 大阪市や大阪市保健所が、電話やメールで個人情報を求めることはありません。
  住民登録のある住所に「接種券」「新型コロナワクチン接種のお知らせ」をお届けしています。個人情報を聞き出す不審な電話やメールにご注意ください。

【相談窓口】
- 国民生活センター　新型コロナワクチン詐欺
  消費者ホットライン　**0120-797-188**
- 消費者ホットライン（局番なし）**188**
  （最寄りの消費者センター等消費生活相談窓口へつながります）
- 警察相談専用電話　**#9110**

新型コロナウイルスワクチン接種について－大阪市 HP（6/15 現在）から要旨抜粋－

【ワクチン接種のながれ】
- ワクチン接種できる場所を探す
  大阪市のホームページで「コロナワクチン予約」を検索し、ワクチンを受けることができる場所を探します。
  個別接種－取扱医療機関
  集団接種－区役所附設会館等大阪市設置会場
  大阪市大規模接種センター（インテックス大阪）　など

- ワクチン接種を予約する
  個別接種は医療機関に直接連絡。その他は大阪市ホームページの「接種　予約サイト」もしくは大阪市新型コロナワクチンコールセンターにて予約
- 当日の持ち物
  接種券、予診票（事前に記入）、本人確認書類（運転免許証・健康保険証など）

【注意事項】
現在、治療（投薬）を受けている方は、診てもらっている医師に接種の可否についてあらかじめ相談のこと

【電話相談窓口】 大阪市新型コロナワクチンコールセンター（9時～21時　土日祝日も対応）
電話番号：0570-065670（ナビダイヤル）
06-6377-5670（ナビダイヤルが利用できない方）